

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6	
	成果指標	二次検査の受診率	%	目標			100	100	100	
				実績			46	75		
		活動指標	中学生を対象としたがん教育の開催 (各中学校への出前講座)	回	目標				2	3
					実績				2	
	単 位 事 業 あ た り	受益者数(a)		人			1,109	872		
		受益者あたり事業費(=C/a)		円			4,039	5,143		

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持(改善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの				
	事業の達成状況と課題	<p>ピロリ菌感染は将来、胃がんに罹患する確率が高くなるため、二次検査の対象となった生徒には二次検査を受けてもらえるようにすることが大切である。</p> <p>成果指標にある二次検査の受診率について令和4年度と比べ、5年度は上昇した。5年度は未受診者に勧奨通知を送付することにより、目標値に近づいた。二次検査対象者の全てが受診していただけるよう勧奨をしていく必要がある。</p>	今後の実施内容・今後の改善内容	<p>成果指標の目標値に達するよう、対象者へ二次検査の案内を送付する際の、受診勧奨の内容についてわかりやすくすること、未受診者への勧奨を継続していく。</p> <p>なお、これまではがん教育の開催を学校からの希望にて開催したため偏りがあったものを、年3校実施することにより、3年のローテーションで全ての中学校で開催することができるようになる。市内中学校で知識の格差をなくせるように進めていく。</p>			
	改善の有無	有		千円	節	細節	細々節
これまでの改善内容	<p>令和4年度は、一次検査の申込書(同意書)を宛名シール付きの封筒で個別配付し、全員から提出をしてもらったが、令和5年度は、希望者のみ提出が必須に変更して事務量の削減を行った。</p> <p>令和5年度は、二次検査未受診者に対し、勧奨を行い受検者数が増加した。</p>	事務事業評価	現状規模で維持				

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
事業分析	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である 令和4年度からの新規事業として、中学生2年生を対象にピロリ菌検査を行い、ピロリ菌の早期発見を図るとともに、健診を「がん」について学ぶがん教育の一環としての機能も果たしている。 しかし、一部の医師からは、中学2年生よりも成人を対象とした方が効果を得られるのではないかという意見が寄せられている。 そのため、現時点では継続が妥当と考えるが、一定期間経過後に、本事業の妥当性について医学的知見も踏まえた検証が必要と考える。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	一部の住民に影響がある 本ピロリ菌検査はがん教育の一部としての役割を果たしているため、現時点での廃止・休止は、啓発活動の促進という観点から悪影響を及ぼすものとする。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい 保護者の同意を必要とする任意検査であり希望者のみの実施であるが、一次検診、二次検診ともに現状のサービスを必要とする。 一次査委託の業者については、入札で決定しており、費用削減は難しいと思われる。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい 一次検診を外部委託し、二次検診を小牧市医師会の協力のもと協力医療機関のみで実施。 いずれも統合は不可。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である 一次検診、二次検診ともに受益者負担なし。